



伝説の戦士でも  
負完全とは関わりたくない

成人向

わん

生徒会室

今日の  
生徒会の仕事も  
終わったし

帰るか

『やあこんにちは  
生徒会長さん』

あなたは  
誰？

『最近  
この学校に来た  
転校生だよ』

『僕の名前は  
球磨川<sup>くまがわ</sup> 禊<sup>みそぎ</sup>』

何の  
用ですか？

『その前に  
プリキュアに  
変身してくれないかな』

『僕は君なんかじゃなくて  
伝説の戦士の方に  
用があるんだ』



それに何で  
プリキュアのこと  
知ってるの？

何？この人？  
確かに何か  
危険だわ



プリキュア  
ラブリンク！

みなぎる  
愛

キュア  
ハ！

キヤア？

『あはは  
日本のアニメって  
何で』

『名乗りを  
上げるまで  
放っておくんだろうね』

『隙だらけ  
なのこそ』



くっ！

『無理無理  
逃げようたって  
無駄だよ』

『隙を見せた  
君が悪いんだ』



『僕は  
悪くない』

一体私に  
何の用なの？



『実は用という  
程の物でもないん  
だけど』

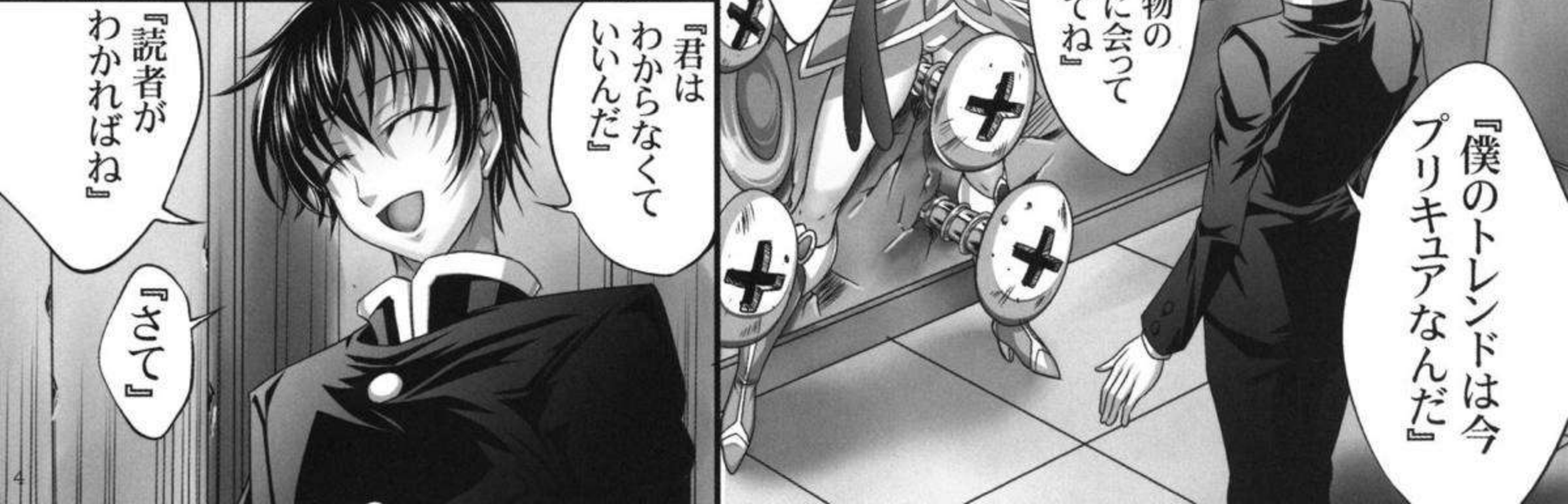
『それで本物の  
プリキュアに会って  
みたくなってね』

え？

『それにいくら  
伝説の戦士だって  
僕の知り合いの生徒会長に  
比べれば』

『たいした事は  
ないよ』

一体  
何の事？



『僕のトレンドは今  
プリキュアなんだ』

『君は  
わからなくて  
いいんだ』

『読者が  
わかればね』

『やっ！』

『成績優秀で  
スポーツ万能  
オマケに生徒会長  
みんなに好かれて』

『その上  
伝説の戦士まで  
やっている人がいるって  
聞いて来たんだ』

や…やめて…!

ナニ

びびッ

『すごいね  
ホントに本物なんだ』

『目の前でみると  
実感が  
湧くなあ』

『伝説の戦士を  
オモチャにしに  
来たのさ』

『簡単な事  
だよ』

あなたの目的は  
何なの？

何ですって？

『へえ…  
ちやんと肉体も  
変化してるんだ』

ふいっ♡

ふいっ

『最近キュアハートの存在を知ってね  
スゴイスペックが高い  
プリキュアって聞いて』

『どんなのかな  
と思っ  
てきたのさ』

どろろもり！

『今言っただじゃない  
どうしたらキミを  
僕のおモチヤに  
出来るかってことさ』

『キミの可愛い唇に  
僕の肉棒を咥えてもらって  
キミの素敵な乳を  
揉みしだいて』

『キミの膣内に  
僕の生チンポをいれて  
中出しするのさ  
ワクワクするなあ』

それだけの  
こと？

何を言っているの？  
そんな事…

オールウェイクション  
『大嘘憑き』

聞くわけ  
ないでしょう！

『キュアハートの攻撃は  
僕には全て  
効かなかったことにした』

え？  
あ？





『ふくん  
プロフィールには  
生徒会長は何でも  
身体を張って相談に乗ってくれる  
って書いてあったけど?』

『僕のおもちちゃんには  
なってくれないの?』

そんな事  
するわけないでしょ!

『なんだ:  
それじゃあ  
仕方ないな』

『君の仲間の  
プリキュアに  
同じ事を頼むかなあ?』

そんな...

『それがいやなら  
僕と遊んでくれるよね  
キュアハートちゃん?』

くっ

『どっちか  
早く決めて  
くれないかなあ』

あ:  
ううう...

えい

『ごうしてずっと  
おとなしくしてくれらるなら  
僕も助かるんだけどな』

もぎもぎ

あ……あ……

絶対に  
みんなには  
手を出さない？

本当ね？

よ……い……

『もちろんさ  
僕は他のプリキュアなんか  
用はないんだ』

『キュアハートちゃん  
一筋さ』

『僕は嘘は  
つかないよ♪』

わかったわ

きやあ！

『それでは  
遠慮なく…』

『気持ちいいなあ  
こんなに揉み心地が  
いいなんて…』

ふん

ちよちよつと  
やめてよ！

いや！  
これ以上は許して！

ふん

『何言っているの  
僕のオモチャに  
なつてくれるんでしょ？』

『まだまだだ…  
これからが  
楽しいんじゃない』





『この程度で  
ネを上げていたら  
キミの友達の所に  
いつちやうよ?』

にゅるっ



あぐ...

にゅるっ



『そうそう  
それじゃ自分ですすんで  
奉仕してもらおうかな?』

そんな...

にゅるっ



『おおっ!』

にゅるっ  
にゅるっ



『お友達が  
どうなっても  
いいのかい?』



『そうそう...  
もつと舌を使って...』

にゅるっ

『おおっ！気持ちいい  
出るっ出すよっ！』

『もう  
我慢できない！』





ひっ!

アッ



あっ!

ちよっ!  
どっ見てるの!

『さすが伝説の戦士  
きれいな色だね?』



『品行方正な  
生徒会長は  
こんなこと初めてかな?』

す

『じゃあ  
こんなのはどうかな?』

当然でしょ!



『他人の指が  
自分の中に入ってくる  
のはどうかかな?』

ちよつ…  
そんな…!!

ひん…!

ダメツ! そんな…

やめつ!

『気持ちいい?  
もつと気持ちよく  
してあげるよ♪』

はひっ…!

だから!  
ダメツて!  
そこは…





やめて！  
ね？

こんなことしちや  
ダメよ！

『断る。』

お願い！

もう一度  
口でしてあげるから…

『嫌だ。』

もちろん  
胸も好きなだけ

揉んでいいから！

『もう遅い。』

勘弁して！  
私が悪かったです…

『僕は悪くない。』

『入った!』

『うわっ!  
気持ちいいっ!』

あつ…あつ…  
ああっっ!

やめ…  
やめて…

いやあ 抜いて!  
抜いてえ!

『あはは  
そんな訳ないじゃない』

『おおっいい!  
キュアハートの  
腔内』

『やわらかくて  
気持ちいいっ!』

いやあああ  
あああつ!



『もう  
出るっ！』

えっ  
出るって?!

やめて  
中には  
出さないでえ！

『出るっ』

いやあ  
やめてえ！





『おおつ凄いっ  
凄いぞ！  
キュアハート！』

ひあ・ああ・  
そんな  
後ろからなんて…

『後から入れると  
中が凄い締めつけて  
動いて…』

やめ  
やめ  
やめて…

『出す  
出すよっ』

そんな  
後ろから  
そんなにされたら…

ダメえこれ以上  
膣内に出されたら  
本当に妊娠しちゃううう



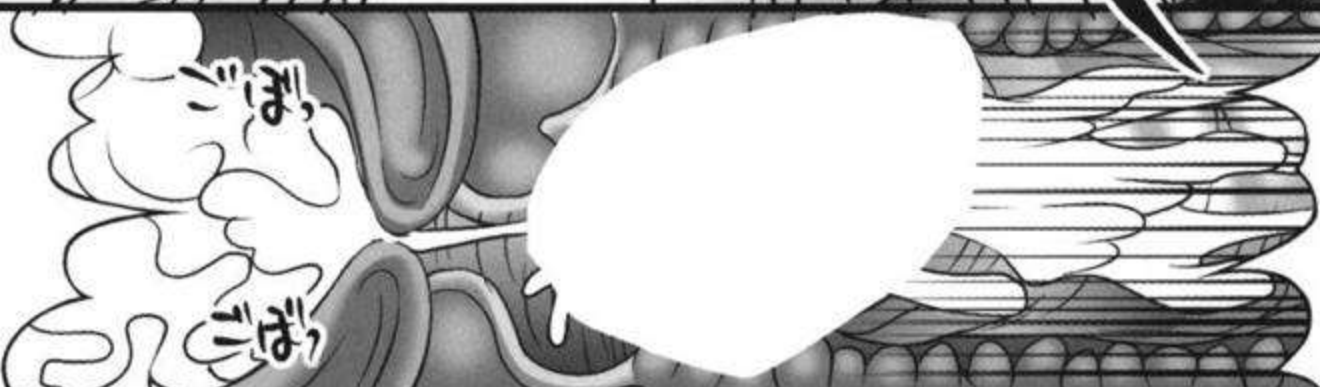
『もう止まららないよ』



やめて  
やめてええ

『二滴残らず腔内に出すからね』

『ホラッ』



あああ

『あはは気持ちよかったよキュアハートちゃん』

『じゃあ今度は上に乗ってもらおうか』



え？

ダメ...  
もう...  
助けて...

びしょ！

ひい！

『ごうするんだよ!』

あ・あ・  
ああ・

おあ~~~~

『ほら  
嫌なら自分で  
立って抜けば?』

『ほら腔内なかに  
どんどん入って  
いくよ』

あは

たてない……  
ちからが……

ひは……



『それじゃ  
動くよ?』

やめ…  
はひ…

わたしのアソコが  
キュンキュン  
してるっ!



『おお  
もう一度イク』

ダメ!  
おかしく  
なっちゃうぅぅ!!



らめえ〜〜



『イク!』

ううう...





『えっ?』

あ:  
みんな...

貴様



僕の負けだ...

やられたよ  
見事だぜ  
伝説の戦士...



ああちくしょう  
悔しいなあ

幸せだなあ



『気持ちいい？  
もつと気持ちよく  
してあげるよ♪』

はひっ！

だだから  
ダメだよ  
そこは

■ おくづけ ■

作品名	伝説の戦士でも負完全とは関わりたくない
巻数	026
発行	ライトピンク
連絡先	<a href="http://www.r-pink.jp/">http://www.r-pink.jp/</a>
協力	青空市場 ( <a href="http://www.aozora7.com/">http://www.aozora7.com/</a> )
発行日	A. D. 2013年2月28日
原案	加山 一角
作画	尚 たかみ
印刷	日光企画



成人向